

国立医療機関の臨床検査部門に求められるスキルミックス ー国立病院機構の新たな中期計画をふまえてー

奥田 勲

第63回国立病院総合医学会
(平成21年10月23日 於仙台)

IRYO Vol. 64 No. 8 (536-539) 2010

要旨

国立病院機構 (National Hospital Organization : NHO) は、第二期中期計画において、「さらなる医療の質向上のために、医療職種間の役割分担と協働に基づくチーム医療の推進を図る」との方針を掲げている。

臨床検査部門については、超音波検査など診療支援の充実や看護支援はもちろんのこと、他のコメディカル職種とのスキルミックス的業務についても見直しやあらたな取り組みが求められている。とりわけ、輸血の医療安全にかかるチーム医療推進研修では、臨床検査技師がその中心的な役割を担うことが重要とされる。また、人材育成面では、中国四国ブロックで検討されている「臨床検査部門のキャリアパス」構築を参考に、今後全国展開することが求められる。

これらをもとに、本シンポジウムにおいて、「今後の臨床検査部門が目指すべきスキルミックス」について、NHO 本部臨床検査専門職の立場で意見を述べた。

キーワード スキルミックス、国立病院機構第二期中期計画、キャリアパス制度

はじめに

近年の医師不足や看護師不足へ対応するためには、医療チームにおける各職種の役割補完や代替関係、広くは多職種によるチーム医療内部での職種混合の在り方や職種間の権限移譲、代替、新たな職能の新設などへの取り組みが重要とされる。

これらの状況から、NHO は平成21年度計画において、質の高い医療の提供について「職種間の協働、チーム医療の推進」を、質の高い医療従事者の育成

確保では「医療従事者研修の充実」を具体的取り組み事項に掲げている。

NHO 第二期中期計画とスキルミックス

NHO 第二期中期計画の基本構想 (柱) は、「医療の質の向上」すなわち国民のための安全かつ安心な医療の推進である。そのためには、医師や看護師だけでなく、コメディカル職種の質の向上が重要との考えが今中期計画から盛り込まれた。いわゆるス

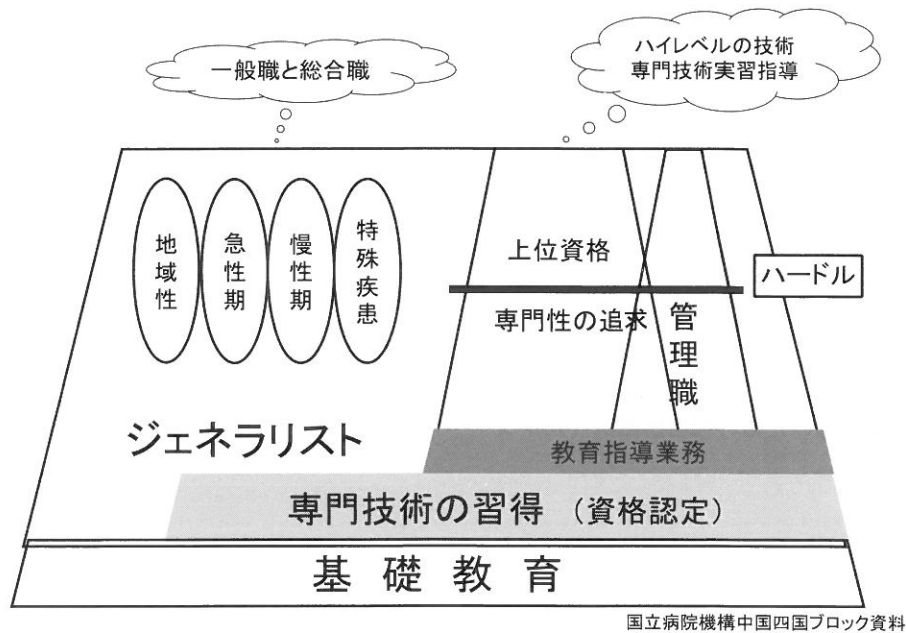
国立病院機構本部 医療部医療課

(平成22年2月4日受付, 平成22年5月14日受理)

Approach to the Skill-mix in the Department of Clinical Laboratory : Based on the New Medium-term Plan, National Hospital Organization

Isao Okuda, National Hospital Organization Headquarters

Key Words : skill-mix, New Medium-term Plan, Career Path Program (CPP)



国立病院機構中国四国ブロック資料

図1 臨床検査部門のキャリアパス構築の試み (NHO 中国四国ブロック)

スキルミックス概念の導入である。これは、厚生労働省で開催された「安心と希望の医療確保ビジョン具体化に関する検討会（高久座長）」において提言されたものである。

では、スキルミックスによる「コメディカル職種間によるチーム医療推進」の意義とは何か。それは、現代医療において、安全で良質な医療確保を目指すには、各医療機関内で良好な多職種間連携（チーム医療）の構築が欠かせないということである。多職種間連携により、従来は知り得なかった業務を相互に理解し合うことで、今後それぞれが担うべき役割（スキルミックスの在り方）が明確になると考えられる。先述の「安心と希望の医療確保ビジョン具体化に関する検討会」において、同様の趣旨（同じ目的のために協働すること）が提言されていることから、多くの専門職種が関わる補完型の医療体制が構築されることは、患者はもとより職員の満足度向上にもつながると考えられる。

求められる臨床検査技師像

今後求められる臨床検査技師像は、以下に集約されるのではなかろうか。

1. 医療人（専門技術職）としての倫理観の醸成
2. 医師へのコンサルテーション能力育成 → 幅広い知識と技術の確立
3. 自らの専門性を高める → 各種認定資格（→

539pを参照）取得や学術研鑽^{けんさん}（学会発表・論文等）

4. 臨床現場（ベッドサイド）への進出
5. 他部門（他職種）との連携によるチーム医療への積極的参画

このような臨床検査技師を数多く養成するため、NHO本部では、バランスのよい組織構築（コメディカル部門の人材育成とスキルアップ）が重要との観点から、各種研修制度を含めた諸取り組みを行っているので、その代表的なものを紹介する。

臨床検査部門への展開や検査技師協議会との連携

1. 臨床検査部門のキャリアパス構築（中国四国ブロック）

NHO中国四国ブロック事務所では、次代の要請を見据えて、コメディカル部門のモデルケースとして、医療課長と臨床検査専門職の連携のもとに、全国に先駆けて臨床検査部門のキャリアパス構築の試みがなされている（図1）。

今後は、他ブロックにおいても、早急に人材育成を含めた同制度の構築が望まれる。

2. チーム医療推進のための輸血研修（全国各ブロック）

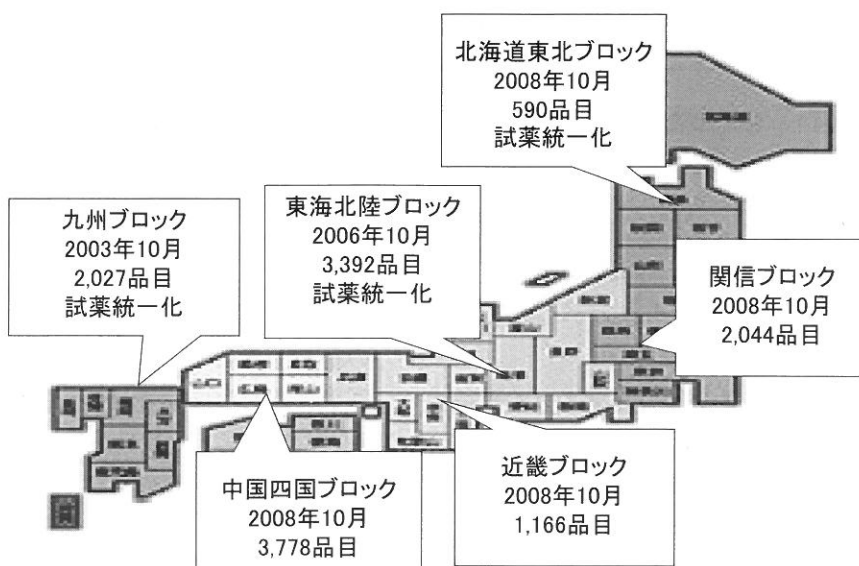
現代医療において、安全かつ適正な輸血療法を実施するために、臨床検査部門が重要な役割を担うこ

- 対象者
輸血療法に関わる医師、薬剤師、臨床検査技師、医療安全看護師による1施設4名のチーム編成
- 研修期間
平成21年10月8日 講義(チーム参加)
10月9日 臨床検査技師実習実技研修
- 研修場所
NHO九州医療センター 講堂・検査科
- 参加者
16チーム60名(医師15名・薬剤師11名・臨床検査技師16名・看護師18名)

図2 チーム医療推進のための輸血研修例(九州ブロック)

- 対象者
近畿管内施設に勤務する、超音波検査を担当するまたはその予定の技師(認定資格受験者優先)
- 研修期間
平成20年11月ー平成21年1月の間で5日間
- 研修場所
心臓コース(大阪南医療センター・循環器病センター)
腹部コース(大阪医療センター・京都医療センター)
- 参加者
各研修受け入れ施設毎に 2ー6名程度

図3 臨床検査技師による超音波検査研修事例(近畿ブロック)



国立病院臨床検査技師協会資料

図4 臨床検査試薬の共同入札に関する情報整理および使用品目集約化検討作業

とは論を待たない。そこでNHO本部研修として、平成21年度より全国各ブロックで臨床検査技師が中心となり「チーム医療推進のための輸血研修」を開催している。参加職種は、医師、臨床検査技師、薬剤師、医療安全担当看護師等である。平成21年度の九州ブロック開催事例を図2に示す。

3. 臨床検査技師による超音波検査スキルアップ研修(全国各ブロック)

臨床検査技師へ期待される診療支援のひとつに、各分野の超音波検査が挙げられる。

そこで全国各ブロックにおいて、数年前から「臨床検査技師による超音波検査研修」を積極的に開催しスキルアップに取り組んでいる。それらの研修計画は、要請度の高い分野から実施するなどさまざま

工夫が凝らされ、認定資格者数の増を含め各ブロックで十分な成果が得られている。平成20年度の近畿ブロック開催事例を図3に示す。

4. NHOと臨床検査技師協議会との連携

NHOは、ここ数年来臨床検査技師協議会(国臨協：国立病院臨床検査技師協会)と連携協力しながら、以下に示すような事業や情報提供等を実施している。

- 1) 臨床検査試薬の共同入札に関する情報整理および使用品目集約化検討作業(図4)
- 2) NHOホームページ上での全国インフルエンザウイルス感染情報掲載
- 3) NHO本部指定研究および病院内における治験業務等への各種作業協力

ま と め

今後、院内臨床検査部門が医療のなかで真に必要なとされる存在であるためには、従来の「求めに応じる姿勢」から脱却し、今後は自らの意志として「自分たちは何をやりたいのか、何をやるようとしている

のか」のビジョンをいっそう明確にする必要がある。そうでなければ、臨床検査技師の姿はなかなか見えてこない。

「あらゆる場面局面で積極的に打って出る姿勢」、これこそが、今まさに臨床検査部門(臨床検査技師)に求められるものであると考える。

今月の



隣に伝えたい
新たな言葉と概念

【臨床検査技師の認定資格】

英 Certification Programs of Medical Technologists

臨床検査に関連する組織・学会は、臨床検査技術の進歩と実情に即し、より専門的な知識・技術を持った人材を育成し、質の高い臨床検査を提供することを目的として、各種分野に認定資格を制度化している(下表)。

細胞検査士と超音波検査士は、それぞれ細胞診検査と超音波画像診断業務に従事する技師の登竜門的資格として広く定着している。認定輸血検査技師と認定臨床微生物検査技師は、近年それぞれの分野において専門的役割が期待され需要の高まっている資格である。認定臨床化学者は、臨床化学領域の専門化学者であることを保証する資格となっている。認定サイトメトリー技術者は、細胞の持つ特性を計量的にとらえる技術・知識を持つ技術者を認定する資格である。その他の諸資格においても、臨床検査技師としての幅広い知識・技能を土台として、各分野に従事する技師の専門性のさらなる向上のための道標となっている。

認定資格取得までの難易度や取得後の評価・認知度は多様であるが、資格取得者の専門的で質の高い業務内容に対しては、手当や地位への配慮、また診療報酬加算につながるような取り組みも期待されている。

表 主な認定資格と主催学会・認定機関

- ・細胞検査士：日本臨床細胞学会・日本臨床検査医学会
- ・超音波検査士(消化器, 体表臓器, 循環器, 泌尿器, 婦人科, 健診, 血管)：日本超音波医学会
- ・認定輸血検査技師：認定輸血検査技師制度協議会
- ・認定臨床微生物検査技師：日本臨床微生物学会
- ・一級臨床検査士：日本臨床検査同学院・日本臨床検査医学会
- ・二級臨床検査士：同上
- ・緊急臨床検査士：同上
- ・遺伝子分析科学認定士：同上
- ・認定一般検査技師：日本臨床衛生検査技師会認定協議会
- ・認定心電検査技師：同上
- ・認定臨床染色体遺伝子検査技師：同上
- ・認定血液検査技師：日本検査血液学会
- ・認定臨床化学者：日本臨床化学会
- ・認定サイトメトリー技術者：日本サイトメトリー技術者認定協議会
- ・認定技術師(脳波分野, 筋電図・神経伝導分野)：日本臨床神経生理学会

(国立がん研究センター中央病院 三浦 隆雄)

本誌塩澤論文524p, 中田論文529p, 奥田論文537p, 永井論文541pに記載